

企業名: はごろもPMパートナーズ(トロピカルビーチ)
業種: 飲食業 ビーチ・施設管理
代表者名: 森根 清昭

【入場者の整理】

入場制限 発熱、咳、風邪症状がある人には、入場を制限する。(事前告知、張り紙、園内放送などで周知)

蜜の回避 売店の混雑を避け、必要なら入店を制限する。(お客様10名を目安)
売店での会計の並びは、2m間隔の床テープで誘導する。
利用可能なウッドデッキ、BBQベンチ席数の7割り程度を目安にご利用いただく。
近距離、大声での会話を控える。
濃厚接触とされる競技の利用不可。

感染拡大予防策 BBQ利用時はマスクと手指消毒用薬の持参を依頼し確認する。
BBQ予約、支払い、受取り等、来店時は、基本的に代表者1名とする。
BBQ利用者の人数調整と親近者での利用を推奨する。
BBQ代表者は、参加者全員の連絡先を名簿にして提示する。スタッフは名簿を確認する。
対策事項が遵守されているかを30分毎に巡回、確認する。

【対人距離】

接触感染防止 金銭・書類等の授受はトレーを活用し、直接の手渡しを控える。
BBQベンチは毎朝の清掃し、清掃後の状態を保持する。(ローピングによる使用禁止)
BBQベンチの貸出しは、とび番号で提供する。(状況を見極め随時見直しを図る)
BBQ、コンロ、利用方法の説明時には距離をとり、図解・支持棒等を使用する。
トング等の共用を限りなく避け、箸、大皿、コップ等の共有を控えてもらう。
ゴミの持帰りを条件にBBQを提供する。
トイレ、ロッカーの利用者間隔を確保する(一部利用制限)
デッキチェアの利用者間隔を確保する。(一部利用制限)
キャッチボール程度は可。接触が当り前の競技は不可。
利用者の対人距離を広くとってもらうため、砂浜、緑地帯での団体競技の占有を控えてもらう。

飛沫感染防止 レジカウンター・透明ビニールカーテンの設置。
飲食を提供するスタッフのマスク着用を徹底する。
スタッフ、利用者とも、近距離での会話を避ける。マスク着用の推奨。
トイレ、シャワー、ロッカールームの利用間隔を開ける。(一部利用停止)
トイレ、シャワー、ロッカールームでの会話を控えてもらう。
利用者のマスク持参と、可能なかぎりマスク着用を推奨する(散歩、ジョギング利用者、利用者全般)

【消毒・清掃】

清掃 2時間に一回程度、トイレ、手すり等を除菌清掃する。
消毒 レンタルグッズ、マリンレンタル備品の界面活性剤やアルコールによる消毒(都度実施)
トイレ便器、床は次亜塩素酸ナトリウム希釈液で清掃する。

【換気対策】

換気 利用時間中は、窓を開け換気扇を回す。

【通常外の対策】

事前案内 BBQ利用者と身近な人の体調確認(体温、咳、倦怠感、風邪症状がある場合は利用不可)
利用は親近者でのご利用を推奨する。
BBQは午後8時までに終了。
ゴミの持帰り。

忘れ物 濡れタオル、水着、下着、靴下など、腐敗または変質しやすいものは3日間程度を保管期間とします。
期間が過ぎても引き取りに来られない場合は、衛生面を考慮し処分させていただきます。
上記の他、忘れ物・拾得物の処置については法令に基づいてお取り扱いさせていただきます。

イベント等 大型イベントまたは不特定多数が参加するイベントは不可もしくは延期

対策強化 出島、防波堤、テトラポットでの「釣り禁止」の強化。
怪我の処置に対するスタッフの負荷が大きいため、ビーチ管理区域からの「釣り禁止」を強化する。

【周知方法】

提示方法 公園入口、店舗入口、管理室、トイレ等に「遵守事項の張り紙」を提示する。
園内放送
HP、SNSに記載
予約時の口頭確認

園内放送内容 対人距離2mを確保(利用者全般、散歩、ジョギング他)。
手洗い(手指消毒)。手すり、ベンチの利用後の「手洗い」。
咳エチケットを心がけ可能な限りマスクを着用を推奨する。
真正面を避け、大声での会話を控える。
トンぐ等の共用を限りなく避け、箸、大皿、コップ等の共有を避ける。
ロッカールームの滞在時間をできるだけ短くする。
グループでの球技、団体競技への注意喚起。
ゴミの持帰り。

【スタッフ】 毎日の出勤時の体温・体調確認、手洗い・手指消毒、うがい、可能な限りマスク着用を徹底する。
風邪の症状や発熱がある場合は自宅待機または帰宅させる。

【ライフガード】

水難救助 要救助者のうち意識不明者は「新型コロナウイルス感染者疑い」として対応する。
緊急時、最少人数で対応する。
海上救助の際は要救助者の顔に近づかない
呼吸の確認、吹き込みはしない
レスキューボードによる救助を基本とする。

陸上での対応 陸上班に引き継ぐ。 第一救助者は補助にまわる。(呼吸が荒く、心拍数も高くなるため)

心肺蘇生 救助者もマスク、タオル等で口、鼻を覆い感染防止対策をする。
心肺蘇生時の呼吸確認は顔を近づけず、胸壁の動き、脈の触知で確認する。
可能な限り感染防具を使用する。
傷病者の口と鼻をタオル、布等で覆う。
飛沫感染を考慮し、上半身部に人がいないことを確認して胸骨圧迫開始。
胸骨圧迫のみで心肺蘇生を行う。(吹き込みは行わない)
AEDは通常使用。
救護室の換気、感染防止を徹底する。

【感染者発生時】 管理者は宜野湾市の担当部局または衛生部局との連絡網と対応策を講じておく。